

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270600325
法人名	社会福祉法人 五島会
事業所名	グループホーム福寿園
所在地 (電話番号)	長崎県五島市吉久木町907-1 (電 話) 0959-72-2338

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 19年 10月 5日	評価確定日	平成 19年 10月 18日

【情報提供票より】(平成 19年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6人, 非常勤 1人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1 階建て	1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	3,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		850 円

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低 69 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	五島中央病院、聖マリア病院、よこやま歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人として、市内の各町にグループホームを有しているため、入居に際し、本人・家族の希望や出身地に合わせて、一番馴染まれるであろうと思われるホームをお勧めするようにしている他、2カ月に1回、法人全体で研修を行ったり、より良い人間関係を築くために、必要に応じて柔軟に移動・異動を行う等、複数のグループホームを運営する法人であることの利点を活かし、法人全体でサービスの向上に努めている。従来より法人として「介護計画の作成」には力を入れていたが、前回の外部評価も踏まえ、更に充実が図られており、法人独自のアセスメントシートを使って情報分析がなされ、入居者の願いを叶えるための「介護計画」が作成されている。内容・表現ともに、入居者の視点に立っており、現在行っているケアはほぼ網羅され、海の近くに住んでいらした方には、「ホームの近くの海にお連れする」といった“地域での暮らし”を意識した内容も盛り込まれており、入居者本位のケアが、細やかに作成された「介護計画」に基づき、職員間での介護の目標・手順等の標準化を図りつつ行われていることがうかがわれる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>①ホームの理念の地域への啓発について…自治会に入り、回覧板と一緒に理念を明示したパンフレットを回していただいた。②「介護計画」の更なる充実…専門用語や行動障害を表す言葉を易しい言葉に置きなおす等、入居者・家族にとってわかりやすく、前向きになれる“入居者本位の介護計画”作成に取り組んでいる。③市町村との連携…運営推進会議を通して、市との連携を深めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員に「自己評価票」を配布し記入してもらった上で、運営者・管理者が1つにまとめたが、職員間で意見が大きく分かれた項目については、職員全員で話し合いを行った。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域との交流を深めるために、「配布用のパンフレットや資料を持って、自治会の総会に出席しては」とのご意見をいただいたので、実際にそれらを持って管理者等が会合に出席し、ホームの役割や活動を説明させていただいた。回覧板へのパンフレットの差し込みもさせていただいた。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月のホーム便りの他、担当職員による家族への個別の手紙により、入居者の暮らし振り・健康状態を少なくとも月に1回は報告している。家族来訪時に時間をとっていただいて、何か気になることがないかお聞きするようにしている他、直接ホームには言いにくいこともあるのではないかとこの思いから、意見箱を設置している。更に、今年、家族会も発足させた。家族から意見をいただいた時は、記録に残し、会議で話し合いをし、職員間で情報を共有し、対応させていただいている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の祭り、市・各町の運動会に入居者をお連れしている。法人内他ホームと合同で、バザー・運動会・敬老会を開いており、地域の方も来られている。中学校との交流もある。運営推進会議の開催・自治会への加入は、近くの系列内3ホームと合同で、当該3ホームが所在する地区に於いて行っており、職員が自治会の会合にも出席している。地域の清掃活動にも、入居者とともに参加している。</p>
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「常に明るい態度で接し、心のふれあいをもつように努める」という、ホーム独自の理念を掲げている。理念は、前任の管理者が作ったとのこと。実際には地域との交流を重視した活動を行っているが、理念の中への具体的な盛り込みはまだされていない。	○	これまでも、地域密着型サービスとしての活動は行っているが、ホームとしては更に強化していきたいと考えているとのこと。職員への意識付けにもつながり、地域に対しても「地域に溶け込んでいきたい」というホームの姿勢が伝わりやすくなると思われるので、理念の中に、具体的にその思いを盛り込んでいくと、より良いと思われる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が作られた時の思いが、現在の管理者、理念作成後に入った職員にも伝えられており、1日理念を意識してケアができるよう、毎日の朝礼は、理念を掲示した廊下で行っており、全職員に理解されている。会議や日々の現場でも、「入居者・家族が何でも話しやすいように、いつも笑顔で接するように」等、具体的な形で話し、日々、実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭り、市・各町の運動会に入居者をお連れしている。法人内他ホームと合同で、バザー・運動会・敬老会を開いており、地域の方も来られている。中学校との交流もある。運営推進会議の開催・自治会への加入は、近くの系列内3ホームと合同で、当該3ホームが所在する地区に於いて行っており、職員が自治会の会合にも出席している。地域の清掃活動にも、入居者とともに参加している。	○	車いす使用の方が多い時期もあったが、現在は、比較的身体的には軽度の方が多いので、これまで以上に、地域の行事や集まりに、入居者をお連れしたいと考えているとのこと。更なる充実を期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・職員は、評価の意義を理解しており、法人全体で積極的に取り組んでいる。前回の外部評価については、全職員参加の下で会議を開き、「改善計画」を作成し、取り組んだ。今回の自己評価については、全職員に「自己評価票」を配布し記入してもらった上で、運営者・管理者が1つにまとめたが、職員間で意見が大きく分かれた項目については、職員全員で話し合いを行った。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者に積極的に参加していただけるよう、どのような内容を会議で話し合いたいかが要望をお聞きしたり、前回出された意見を踏まえてその後にホームで行ったことを報告している。前回の外部評価の結果の報告もしている。ホームとしては、要望や意見がお聞きできるよう積極的に質問しているが、遠慮もおありなのか、具体的なご意見が挙がることは少なめとのこと。	○	今後も、家族や地域の方から、より積極的なご意見がお聞きできるよう、取り組んでいきたいとのこと。議題としてより身近なテーマを設定するとともに、前回出された意見に対して取り組んだ結果を、口頭で報告するとともに、議事録に具体的に残すと、出席者に更に意見を言っていただきやすくなるかもしれない。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ほぼ毎月、市担当窓口を訪れ、必要に応じて、報告・相談を行っている。会議や行事の時以外にも気軽にホームに寄ってくださるよう、地域の方や市担当者に声かけしている。運営推進会議の回数が重なるにつれ、市担当者との距離が縮まり、会議終了後の何気ない会話の形で、近況報告や相談ができるようになったとのこと。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のホーム便りの他、担当職員による家族への個別の手紙により、入居者の暮らし振り・健康状態を少なくとも月に1回は報告している。金銭管理については、来訪時に、出納帳と残高の確認をさせていただいている。家族によって知りたいと思われることに違いがあることを意識し、それぞれに合わせた報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に時間をとっていただき、何か気になることがないかお聞きするようになっている他、直接ホームには言いにくいこともあるのではないかの思いから、意見箱を設置している。更に、今年、家族会も発足させた。家族から意見をいただいた時は、記録に残し、会議で話し合いをし、職員間で情報を共有し、対応させていただいている。	○	外部評価の2カ月前に開催した初回の「家族会」には、多くの家族にご出席いただけ、ホームとしては、今後も積極的に行っていきたいとのこと。頻度を増やしたり、内容も工夫し、更に充実させていくことを期待したい。市職員や法人内の有資格者の協力も得て、権利擁護や高齢者の健康について、話をしてもらい、家族に対する最新情報の提供の場とするのも良いと思われる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の勤務希望に極力応じ、個人面談を行って悩みを聞いたり、食事会を開く等、働きやすい環境づくりに努めている。グループホームについては、法人内異動は原則行っていないが、人間関係でうまくいかない様子がみられた時は、ホーム間で職員交替をし、円滑に業務が行えるようにしている。新しい職員が入った時は、入居者に紹介し、細やかな指導・情報伝達を行い、入居者の混乱を最小限にするよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として職員研修には力を入れており、2カ月に1回、法人全体で研修を行っている。外部講師を招くこともある。業務の都合で研修に参加できなかった職員には、資料を配布したり、ホーム内会議の時に伝達したりしている。職員の勤務年数により、資格取得を勧めたりはしているが、職員毎の研修計画は作成していない。	○	毎年度最初に、職員自ら、目標・学びたいことを明記してもらい、受けた研修の記録を残していくのも、職員の意欲向上・計画的な研修受講に有意義と思われる。法人として、職員の学習機会の確保は積極的に行っている。次の段階として、職員一人ひとりが、より積極的に研修に参加し、段階的に知識・技術向上を目指していける仕組み作りに取り組んでいくと良いと思われる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の事業者協議会に入っており、協議会主催の研修会や事例の合同検討会に参加している。現在の協議会は、参加できる者が職種・立場で限定されており、一般職員が参加することはほとんどないとのこと。	○	ホームとしても、相互訪問といった職員レベルでの交流を行うことを希望しているとのこと。協議会へ提案する等、実現に向けて取り組みを行っていくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があった場合は、法人本部の職員が面接に行き、その後、本人・家族に見学に来ていただいている。法人として、市内の各町にグループホームを有しているため、本人・家族の希望や出身地に合わせて、一番馴染まれるであろうと思われるホームをお勧めしている。入居までの手続きは、法人本部が主体で行っているため、入居前にホームの職員が馴染みの関係を築いておくことはあまりないが、入居後は、1日も早くホームの暮らしに慣れていただけるよう、収集した情報を活かしながらケアを行っている。	○	ホームの生活に馴染んでいただくための入居後の配慮や工夫は、これまで通り行っていくとともに、入居前に顔馴染みの関係が築けるよう、入居前の面接や手続きに、ホーム職員がこれまで以上に積極的に関わっていききたいとのことで、更なる充実を期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	郷土料理の作り方、ことわざ、方言、味付けのコツ等を教えていただいている。一緒に笑い合う等、家族のような雰囲気、接せさせていただいているとのこと。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアについては、何事につけ、問いかけの形で言葉かけをし、入居者の意思を確認するようにしている。従来より法人として「介護計画の作成」には力を入れており、法人独自のアセスメントシートを使って情報分析をし、入居者の願いを叶えるための「介護計画」を作成している。計画作成担当者は、系列法人3ホームを兼任しているが、毎日2～3時間はホームに滞在するようにし、自ら入居者に接したり、職員から話を聞いたりして、入居者の思いの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	前回の外部評価での指摘も踏まえ、入居者本位の計画作成に努めている。内容・表現ともに、入居者の視点に立っており、現在行っているケアは、ほぼ網羅されている。遠方からの入居者については、「馴染みの地域での暮らしの継続」を盛り込むことが難しいが、海の近くに住んでいらした方には、「ホームの近くの海にお連れする」という内容を入れたりしている。計画作成担当者が兼任のため、作成にあたっては、ホーム職員と話し合いをしており、主治医、法人内理学療法士・他ケアマネジャーに相談もしている。	○	計画作成担当者は、現在も、できる限り入居者と話し、希望に沿った計画の作成に努めているが、兼任であることから、入居者・家族と接する時間がどうしても限られてしまうため、「入居者の真の思いが汲み取れているのか」という思いがあり、入居者と過ごす時間を少しでも多くしていきたいと考えているとのこと。現在は、家族と直接話す機会もあまりなく、「計画」について具体的に意見や要望をいただくことが少ないので、自身の表現力・コミュニケーション能力の向上も含め、継続的に取り組んでいきたいとのこと。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化があった時や新たな要望が挙がった時は、予定時期の前でも見直しをしている。変化の兆しについての気づきや、ケアの変更の必要性の話し合いを、月2回のカンファレンスで行っており、全利用者について月1回程度、検討を行っている状況にある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	盆や正月で自宅に戻られる時にホームで送迎したり、通院介助、友人宅や美容室への送迎等を行っている。地域行事(祭り)にお連れしたりもしている。定期的に神父に来ていただいている入居者もおられ、ホームとして、その習慣を尊重している。入居者が入院された時は、ホーム職員・法人本部の職員が見舞いに行くことで、入居者の入院中の混乱を最小限にすることに努めている。	○	これまででも、法人として地域からの介護の相談を受け、法人・事業所の多機能性を活かしての地域貢献はしてきているが、ホームとしても、地域の高齢者への支援、及び地域の方との交流という両面から、昼間独居の方にホームに遊びに来ていただく等、更なる多機能性の発揮に努めていきたいとのことで、法人本部とも相談しながら進めていくことを期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院介助は、原則ホーム側で行っているが、遠方であった場合等は、家族にお願いすることもあることを説明した上で、入居後の主治医をどうされるか、入居時に話し合いをしている。変化があった時や医師から新たな指示があった時は速やかに家族に伝え、変化がなかった場合も次回面会時等に報告している。ただし、家族に通院介助していただいた時の受診結果の確認が充分できているとは言いがたいとのこと。	○	協力医療機関とは、いつでも相談できる関係にあるが、各入居者の主治医については、医療機関としての守秘義務もあり、ホームとして充分内容をお聞きできない場合もあるとのことで、家族に通院介助をしていただいた場合は特に、密な情報交換が必要と思われる。ホームとしても、この点については強化していきたいとのことで、更なる取り組みを期待したい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者・家族が希望される限りは、ホームでお世話させていただきたいの思いはあるが、医療的処置が必要になった場合は、現状ではホームでの対応に限界があるため、医療機関への入院・併設施設への入所という形で対応させていただいており、その旨、入居時に説明している。ホームでの暮らしをできるだけ長く継続していただけるよう、体操や広い廊下を使つての歩行訓練を採り入れ、健康維持を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者が馴染まれていることから方言を使うことはあるが、目上の方に対して失礼な表現やぞんざいな言い方にならないよう、言葉遣いについては特に注意している。個人情報取扱いについてもルールを定め、徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを保つためにある程度の日課は決めているが、入居者が好まれないことを無理強いすることはせず、それぞれのペースで過ごしていただいている。急な外出希望にも極力応じるようにしているが、難しい場合は説明し、別の日を提案して了解いただくようにしている。自らの意思表示が少なく活動が少なめな方についても、声かけしたりスキンシップをしたりして、気持ちよく過ごしていただくことを心がけている。	○	入居者が立ち上がった瞬間や歩いている最中に目的を忘れてしまったような様子が見られた時、強い誘導をしたりせず、思い出されたり次の行動に移られるまでゆっくり待つよう指導をしているが、たまに職員の誘導が強いように感じられる場面がみられるとのこと。管理者は繰り返し指導をしているが、“待つケア”が徹底できるよう、今後も、継続して注意していきたいとのこと。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成・食材の買出し・下ごしらえ・味見・配膳・下膳・食器洗い・片付け・テーブル拭き等をお手伝いいただいている。旬の食材やホームの畑で採れた物を食卓に上らせたり、山菜の煮付け、手のひら団子等、入居者が馴染まれているおかず・おやつをメニューに採り入れたりしている。天気の良い日は、手作り弁当を作ってドライブに行ったりもしている。	○	外での食事、特に戸外での食事は、入居者が大変喜ばれるので、今後も、出来る限り回数を増やしていきたいとの声が職員から聞かれた。更なる充実を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者毎に1日置きに入浴をさせていただいているが、ホームとしては毎日お風呂を沸かしているため、要望があれば対応できる。時間帯についても、原則午後に行っているが、希望によって午前中に入らせていただくこともある。羞恥心や自尊心への配慮も行っている。拒否が強い方もおられたが、まずは足浴や清拭を行い、シャワー浴、湯船につかっただけの入浴と徐々に進めたことで、スムーズに入浴していただけるようになった。時々温泉にもお連れしている。	○	現在も入浴剤を使用し、気分を変えて入浴を楽しんでいただけているようにしているが、菖蒲湯・ゆず湯等、季節毎の昔からの風習を採り入れた入浴を、新たな試みとして検討してみたいとのこと。入居者・家族にもお尋ねしながら、入居者に入浴を楽しんでいただける工夫も、今後も継続して行っていくことを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や洗濯物たたみ等のホーム活動に参加いただいている。皆で楽しめるレクリエーションや行事を行う他、入居者毎に好まれること・得意なことを把握し、その日の気分に合わせて好きなことを楽しんでもらったり、得意なことを発揮していただく場面作りをしている。	○	現在、ホームの畑で、かぼちゃ、オクラ、しそ、ネギ等の野菜を作っており、収穫や水撒きは、入居者にも参加いただいているが、種や苗を買ってきて、蒔いたり植えたりするのは、主に職員が行っているため、もっと入居者にご参加いただけないか検討してみたいとの声が職員から聞かれた。更なる充実を期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物・ドライブ等、外出の機会を作っている。美容院、薬局といった入居前からの馴染みの店、教会や病院(シスターに会いに行くため)等の入居者にとって大切な場所への外出支援も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	敷地の出入り口、玄関、裏口すべてについて、日中は施錠していない。入居者が落ち着かれなくなる時間帯・兆しを予め把握し、職員同士で声かけし、見守りに隙ができないよう注意している。過去、入居者が、職員が気づかない内にホームから出られたことがあったが、敷地が広く、敷地から出られる前に併設施設の職員が気づくことができたとのこと。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力も得ながら、入居者にも参加いただき、年に2~3回、通報・消火・避難訓練を行っている。併設施設も含めて法人として、地域への理解・協力依頼は行っているが、これまで地域の方に訓練に参加いただいたりしたことはない。災害時備蓄も、ホームとしては特に行っていない。	○	実際に災害が起きた時に、地域の方に迅速・具体的に協力いただくためには、日頃より、避難訓練に参加いただくことも効果的と思われる。運営推進会議で、地域の方にどのような協力がいただけるか話し合いを行い明確な形で協力依頼をするとともに、訓練への参加の呼びかけもしてみたい。災害時備蓄についても、何が必要か、職員と話し合いを行ったり、運営推進会議で意見をお聞きしたりしながら、順次、整えていくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材・調理方法・盛り付けのしかたを、嗜好に合わせて個別対応している。献立は、併設施設の栄養士が作成しており、入居者の体格・疾病・活動量を栄養士に伝え、必要なカロリーが摂れているかの確認もとっている。食事・水分ともに、摂取量の把握・記録を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音・光・色について、刺激が強すぎることがないように配慮しながらも、生活感・季節感は感じられるようにしている。建物中央に中庭があり、それを囲んで広い廊下、及び居室が配置される造りで、かなり広い食堂兼居間、畳の間もあり、明るく広々とした印象を受ける。空間は広いが、観葉植物や手作りの飾り物が置かれ、家庭的な柔らかな雰囲気漂っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際し、使い慣れた物や思い出の物をお持ちいただけるようお願いしている。衣装ケース・テーブルといった家具、使い慣れた日用品、家族の写真や位牌、大切にしているぬいぐるみ等が持ち込まれている。		